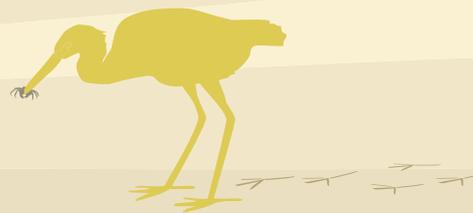


# なぎさ NEWS



## すごいぞ！東京の干潟は生き物がいっぱい

今年度も親子向けシリーズプログラム「東京の海を知る」が始まりました。実際の体験を通して、身近だけれど意外と知らない東京湾の環境や生き物を感じてもらおうプログラムです。その第1回として、4月29日、12家族にご参加いただき、水族園の目の前にある人工干潟「西なぎさ」で観察会を行いました。

まずは潮の引きはじめた干潟を少し高い位置から見渡し、水がたまったところや完全に干上がって砂の色が変わっているところなど、干潟にもいろいろな場所があることを確認しました。そしていよいよ探検に出発！砂っぽいところでは、縦にまっすぐ掘られた巣穴にすむコメツギガニを素手で捕まえ、砂にもぐる様子を観察しました。泥っぽいところでは、姿勢を低くして息をひそめ、ヤマトオサガニが活動するのを待ちました。「いっせーのせ！」の掛け声で子どもたちが立ち上がると、カニたちは横歩きで巣穴の中へ。視界いっぱいのカニたちがいっせいに身を隠す様子に歓声があがります。同じカニのなかまでも、すがた形やくらしにはさまざまな違いがあります。潮だまりでは、用意しておいた魚の切り身を置いたとたん、砂にもぐっていた巻貝のなかま、アラムシロガイが次々と集まり、これには大人のほうが夢中になりました。

この日は、比較的見つけやすいカニや二枚貝だけでなく、テッポウエビやヒラムシのなかまなど少し見つけづらい生き物も見つけ、全部で30種ほどを採集しました。休けいの後、捕まえた生き物を再びじっくり観察し、最後は干潟の役割を紹介する紙しばいで「干潟ってすごい！」と確認して、楽しい観察会はおしまいです。観察した生き物たちは海へ返しました。今年の「東京の海を知る」は、全4回のプログラムがあり、第2回は「アマモ場」を訪ねる予定です。

(教育普及係 堀田 桃子)



どんな生き物が出てくるかな？ドキドキの瞬間

## 干潟に残された痕跡を追い！



地面に残された泥粒

人工干潟「西なぎさ」では、さまざまな生き物に出会えます。しかし、見渡してみても平らな地面が広がり、何もいのように見えます。そこで生き物探しのヒントになるのが地面に残された痕跡です。例えば写真にある泥粒の山。どう見ても不自然です。ツヤのある質感も周囲の砂と違います。素早く掘ってみると、ゴカイのなかま、イワムシが出てきました！イワムシは、各地の海岸で軟らかい岩や砂地に穴を掘って生息しています。夜になると穴から顔を出し、エサを食べていると考えられています。種明かしをすると、粒の正体はイワムシの糞でした。

干潟には岩などの身を隠す場所がなく、生き物の多くが地中にくらしています。イワムシの他にも、いろいろな生き物痕跡を探してみてください。

(調査係 宮崎 寧子)

## なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、2017年の4月に行った「西なぎさ」での地曳網調査と生き物調査の結果を報告します。

**4月地曳網調査：**水温17.5℃、気温15.8℃。あたたかくなり、「西なぎさ」にはたくさんのお魚の子どもが訪れています。今回の調査では、ハゼ類の子どもがおよそ6種、1000尾以上も採集されました。また、スズキやボラ、イシガレイなど他の魚の子どもも多く見られています。

**4月生き物調査：**水温13.4℃、気温12.1℃。この日は雨がふっていて、干潟のカニが活動している様子は観察できませんでしたが、ユリカモメやコアジサシが飛来して、エサをとる姿が見られました。また、前回の調査と同様に岸辺でスナヒトデが数多く見つかりました。